



**【会員インタビュー】堀口哲夫さん(1962年理工)**  
**～杉並にあった伊藤若冲の画と本居宣長の書～**

—美術を愛する田村純利さん(4B世話人)が堀口さんのご自宅を訪ね、ご夫妻から話を聞きました—  
 [伊藤若冲の画をお持ちとお聞きしていますが] 屏風絵を表装したのを3点、掛軸を1点所蔵しています。何れも水墨画で、若冲が好んで描いた鶏の絵です。以前はもう少しあったのですが、盗難にあたり親戚にあげたりして現在残っているのはこの4点です。



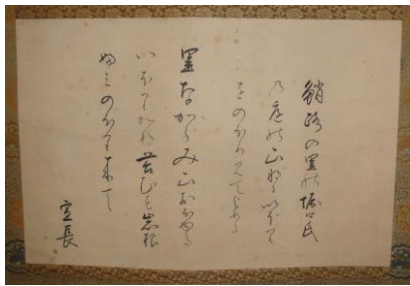
若冲の屏風画

[若冲がいつ頃描いた画ですか] 国立博物館が研究用に借りにきましたので、本物であるのは間違いないのですが、正式な鑑定を受けていないので、年代は分かりません。カタログなどで調べてみると晩年の作だと思います。若い頃の彩色画と比べれば華やかさはありませんが、頭の中に入っている鶏の生態を一気に描き上げた迫力はあるような気がします。

[この画を所有された由来は何ですか] 家内の実家が三重・松坂の旧家で、そこにあった画を引き継ぎました。ただ、なぜ先祖が若冲の画を持っていたかは分かりません。国文学者の本居宣長と懇意にしていたので、その関係で入手したのではないかと云う人もいますが違うでしょう。若冲を好きだった者がいたのか、少し時代は後になりますが、古美術商をしていた親戚が買い集めたか、どちらかと想像しています。

[最近では若冲が大ブームになっていますね] 江戸時代は丸山応挙と並び人気があったようですが、日本人が好む風景画や人物画を描かなかったので、明治以降はそれほど話題になりませんでした。近来、アメリカ人の収集家ジョー・プライスのコレクションが紹介され、逆輸入のような形で火が付きまして。とくに今年は「若冲生誕300年」なので、各地で展覧会が開かれ大ブームになっています。動物や植物を丹念に観察して描いた、独自の画風が再評価されたようですね。

[本居宣長の書もお持ちですね] 宣長は国文学を研究する傍ら、松坂で開業医をしていました。そのような関係で親交があったようです。宣長から堀口氏へと書き添えて買った和歌は掛軸にしてあります。その他にも、書簡は沢山あり、一部は表装して保存しています。もしかしたら、宣長の活動を応援していたのかも知れませんね。



宣長より堀口家に贈られた和歌

[他にも美術品をお持ちですか] 仏像が2体あります。鎌倉か室町時代のもので、作者は判りませんが、顔が優しいので気に入っています。美術収集家ではありませんので、普段は書画を箱に入れて収まっています。特別な保存法はしていませんが、状態は比較的に良好です。たまにゆったりしたい時は、若冲の画を取り出して眺めながら、夫婦で酒を飲んだりもしています。(笑い)

[画や書は展覧会などに貸出されるのですか] 私が所有していることを知っている人は、ほとんどいませんで貸出の話はありません。外部には出ていませんね。ただ、友人が来た時にはお見せしています。「何で若冲の画があるの」と驚かれる方が多いです。稲門会の方も何人か観に来られましたよ。  
 [楽しいお話を聞かせていただき有難うございました]



宣長の書簡をバックにした堀口ご夫妻

**訃報**

下記の2名の会員の方がご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

- ・矢橋幸一さん 1948年理工卒 阿佐谷南※H28年7月4日 享年90歳: NHKに入社されハイビジョン開発の中核を担われました。元NHK専務理事
- ・竹田一平さん 1957年政経卒 阿佐谷南

【特別寄稿】 故 竹田一平様を偲ぶ

寄稿者: 百地 健

9月7日に竹田一平さんが肺がんのため82歳で亡くなられました。12日に告別式が行われ、出棺の際に奥様が本人愛用のドイツ語辞典を棺に入れたのが印象的でした。竹田さんと私は昭和28年に同期で政治経済学部に入學し、同じクラスで机を並べました。彼のドイツ語の学力には驚きました。卒業後、日本貿易振興機構(JETRO)に入社され、万国博覧会のエキスパートとして活躍されました。定年後にホームカミングで再会し、それからはクラス会や杉並稲門会で会うことを楽しみにしていました。第4ブロックでは「北京万国博覧会」と題した講演をお願いし、現在の一金会のきっかけを作っていただきました。この一年ほど病気がちで、河北病院に入院中にご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

情報やご意見をお寄せください

発行責任者: 第4ブロック世話人代表 西野正浩

編集責任者: 柄谷隆宏 ☎03-5932-2598

メールアドレス: t.karatani@jcom.home.ne.jp

2016年11月発行